

ブラジル 香川県人

移住100周年記念式典

さらなる友好親善関係の強化を

浜田県知事、水本県議長一行も出席

「100年にわたって築き上げた先人の功績を胸に、母県との友好交流が揺るぎないものとなるよう願います」。ブラジル香川県人移住100周年記念式典が、11日午前10時からサンパウロ市ミランド・ポリス区の同県人会館で開催され、菅原パウロ農夫男会長はあいさつで冒頭の言葉を強調した。式典には、母県から浜田県知事、水本県視察協議会議長をはじめとする慶祝団16人が来伯して出席。当日の会場には県人会員や関係者及び来賓など約300人が参加し、同県人がブラジルに移住して1世紀となる節目の年を祝った。

香川県人のブラジル移り、同県からの移民数は住は1913年10月、帝総計2845人、現在まで約1万6000人に及ぶという。この日の式典には菅原会長をはじめ、浜田県知

事、水本県議長、平木亭香川県議会議長、多田野榮香川県国際交流協合理事長、福島毅輝サンパウロ総領事、岡田昭憲県連会長、木多喜八郎文協会長、菊地義治援協会長、飯屋ワルテル下議、安部順二下議、羽藤ジョージ聖州議

小松パウロ元陸軍中将、山本陽三北伯香川県人会会長、平井孝吉パラグアイ香川県人会会長らが出席。式典では、先亡者慰霊法要が南米大神宮の逢坂和男宮司により執り行われ、菅原会長、浜田県知事らが神前て玉串奉納を行った。日伯両国歌斉唱の後、菅原会長があいさつ。香川県人移住の歴史を振り返り、日本祭りや金

毘羅(こんびら)大祭など県人会活動の中で香川名物の「うどん」を提供していることにも触れ、その上で、100年をたたくて築き上げてきた先人の思いを胸に、今後のブラジル発展と母県との友好交流を期待。本日が新たな出発で、歴史として刻まれることを願う」と述べた。

祝辞を述べた浜田県知事は、ブラジルに移住した香川県人が困難を克服し、伯国の各分野で活躍していることに敬意を表し、落成から16年を迎えた会館が南米の香川県人の活動拠点として活用されていることを喜んだ。さらに母県の現状を説明し、「日本一小さい県」でありながら、「海と田園と都市の魅力がぎゅぎゅと香川を目指して取り組んでいく」と強調。ブラジルと香川県及び日本との友好親善への協力を求めた。

香川ネルソン氏による研修生代表あいさつの後、母県からの補助金贈呈、日系3団体への寄付金贈呈、記念品交換により式典は閉会。場所を2階に移して行われた祝賀会では、鏡割り、乾杯の後にサンパウロ、乾杯があり、慶祝団及び県人会員を巻き込んだ踊りで盛り上がった。

青年及び婦人による「海を渡って100周年」が合唱され、最後は記念のケーキカットにより締めくくられた。前日の10日にパラグアイ香川県人会創立40周年を行ったという同会長の



壇上であいさつする菅原会長



祝賀会で乾杯する来賓たち(右から4人目が浜田県知事)

平井さん(76)は、浜田県知事一行が同国を訪問して式典を行ったことについて「同じ身内のような気持ちになり、うれしかった」と喜びを表していた。

が未来をつくる」とし、日伯両国のさらなる友好関係強化を願った。引き続き、2013年度憲法記念日知事表彰に藤本徹也氏、高齢者表彰として蓮井清明、山本弘己、新居登三の3氏すでに功労者表彰として斉藤準一、浅沼雅恵、坂本豊子、中島佳子の4氏がそれぞれ顕彰された。表彰者を代表して藤本、蓮井両氏の謝辞に続き、浜岡政晴氏が移住者代表あいさつ。県人会の歴史を年代別に振り返った。

São Paulo Shimbun, 13 de agosto de 2013

Os 100 anos de Imigração da Província de Kagawa no Brasil, foram comemorados no dia 11, às 10h, na sede da Associação com a presença do Governador da Província e Presidente da Assembleia Legislativa da Província de Kagawa, Senhores Keizo Hamada e Katsushi Mizumoto, respectivamente.

Participaram do evento 300 pessoas e o Deputado Federal Junji Abe esteve presente dentre as autoridades da comunidade.